

テーマⅠ 回顧：日中民間交流の歴史

日本人の歴史観及び日本から見た中国

沖縄高教組那覇支部書記 大城 航



1. 現代に残る琉球の文化

はじめに、通州にある琉球処分のときの琉球人埋葬地の復元・保存の事業が進んでいると地元新聞の報道で知った。この事業を決定し、現在も事業を行っている関係各位に、僭越ではあるが、沖縄の歴史教育に関係するものとして、厚く感謝申し上げたい。

さて、私の発表するテーマは「日本人の歴史観及び日本から見た中国」であるが、あくまで沖縄という日本とは異なった歴史・文化・社会事情を持つ地域から見たものであることをご了承ください。

1372年に中山王・察度が、洪武帝に朝貢したことから琉球・中国の公式な交流が始まる。1401年に察度の子・武寧が冊封されてから1879年まで中国との冊封関係が続いた。1609年に薩摩に侵略され、その支配下に置かれた。しかし明・清朝との冊封関係を存続させることは、幕府・薩摩・琉球の3方にとってメリットのあることであったため、琉球は「幕藩体制下の異国」という位置が近世期を通して続けられた。

薩摩・日本の政治的・経済的影響力が強まる中で、琉球の主体性を維持するために中国的な文化を積極的に取り入れる。石敢當、亀甲墓といった福州の文化的影響が非常に強い。一方、組踊やエイサーといった日本がルーツとされる芸能も生まれた。近世期の琉球では、日中文化を融合した独自の文化が栄え、その文化は現在も続いている。

今年6月に行った授業では、「現在に残る琉球文化が好き」と答えた生徒がほとんどだった。琉球の文化が中国の文化的影響を強く受けながら現在まで続いている、ということを理解したうえで、中国との交流を肯定的にみる生徒が多い。日本との関係よりも中国との関係の方が深いものだったと考えている生徒も多い。「中国から伝来した文化」というのは理解している一方で、直接文化をもたらした福州についての知識はあいまいである。琉球の文化を学ぶとともに、福州の文化・社会・歴史についても同じように学習する必要があると考える。

2. 近代沖縄と明治150年

1872年、明治政府は当時の琉球国王・尚泰を琉球藩王に冊封し、国内外へ琉球が「日中両属」であることを宣言する。その後、1879年に軍隊・警察隊を派遣して、尚泰を東京へ

連行し、琉球国は廃止され沖縄県が設置される。この「廃琉置県（琉球処分・琉球併合）」の動きの中で、琉球は一貫して「日本は父の国、中国は母の国」と言い、「日中両属」の継続を求めた。この動きは置県後も変わらず、沖縄から中国へ脱出した士族は、琉球国復活を求める運動を展開した。

1879年に日本の一つの県（沖縄県）となったが、「日本から遠く、歴史・慣習・風俗も違うため、これまでの制度を据え置く」という旧慣温存策が続けられた。1896年から税制度・土地制度が改革され、1898年には徴兵制が適用された。しかし国会議員の選出、地方自治制度といった県民の権利はないがしろにされた。国会議員が選出されたのは1912年、他の府県と同じ地方自治制度が整備されたのは1920年のことだった。

1903年、人類館と称する施設において、琉球人・朝鮮人・台湾先住民などを見世物にする「人類館事件」がおきた。沖縄の人びとは、琉球を見世物にすることを差別であると強く批判した。同時に台湾原住民やアイヌと同列視されることに対しての批判も行った。この事件に見えるように近代日本において民族差別は構造的・複合的に行われた。

このような差別構造の中において、沖縄人は日本への同化と沖縄の独自性の中で揺れ動いた。沖縄への差別をはねのけるため、または政治的権利を獲得するために、ある時は日本と同一であること（日琉同祖）を主張し、一方では文化・歴史の独自性を主張した。その過程において、台湾原住民等の他民族への差別が表層化したのである。

この延長線上に1930年代の中国蔑視があると考えられる。日中戦争前から、沖縄でも日本と同様に徐々に総力戦体制が築かれ、中国への敵愾心を高める報道等が増えていき、沖縄人の間にも中国を蔑視する考えが広がっていった。1936年に琉球の武術が「唐手」から「空手」へ表記統一されたのは、その代表的な事例だろう。

3. 沖縄戦と沖縄における平和教育

1944年7月、南西諸島に日本軍（第32軍）が上陸し、陣地構築・飛行場建設が軍民共同で行われた。日本軍は住民の住居に宿泊し、沖縄戦が開始される1945年3月末まで住民と寝食を共にした。日本軍将兵は「捕虜になると男は残虐な方法で殺され、女は性的暴行を受け続ける」と日常的に語った。第32軍の多くは、華北の戦線から移動してきた部隊であり、「我々が中国戦線で、そのようなことを行ってきた。鬼や畜生にも劣る米兵なら、どんなひどいことをするだろうか」ということも同時に住民に語ったのである。

沖縄戦では、日本・アメリカ両軍の将兵よりも住民の犠牲者の数が多かった。捕虜になることの恐怖・恥辱を教え込まれた住民は、米軍が近づいてくると集団で自殺（強制集団死・集団自決）した。また自然壕や亀甲墓に隠れていた者は、捕虜になることを恐れて投降しなかったため、アメリカ兵の無差別攻撃の犠牲となったことなどが理由である。「中国戦線で、日本軍は残虐なことを行った。アメリカ兵ならなおのことである」という話は、住民の間で相当なリアリティをもって広まっていった。つまり沖縄戦の悲劇は、中国における日本軍の蛮行と表裏をなすものと考えられる。

しかし歴史の授業等において日本と中国との戦争については、ほとんど教えられていない。住民の犠牲と「捕虜になると男は残虐な方法で殺され、女は性的暴行を受け続ける」ということは教えられるが、中国戦線における日本軍の蛮行は教えられない。また中国への加害も語られない。日中戦争前からの「中国蔑視」もあった。そのような加害の歴史をどう教えるか、がこれからの平和教育の最大の課題である。

毎年6月23日の前後に沖縄戦に関する特設授業が行われる。それは6月23日が「慰霊の日」とされ沖縄戦全戦没者追悼式が行われるからである。6月23日は第32軍の司令官・牛島満が自決し、組織的な戦闘が終了した日である。それが慰霊の日の根拠となっている。しかし、実際には9月まで散発的に戦闘が続き、住民は食料不足やマラリアで苦しみ、多くの人が亡くなった。また離島では日本軍によって住民が虐殺される事件もおきた。日本軍が正式に降伏文書に調印したのは9月7日だった。

6月23日に「慰霊の日」が設定されていることは、「歴史修正主義」の影響が存在すると私個人は考えている。沖縄戦における「歴史修正」は長い時間をかけて行われている。「慰霊の日が6月23日」ということは、多くの沖縄人にとって当たり前のことであり、疑うべくもない事実となっている。しかし、深く学習することで疑問点が出てくる。歴史修正主義とたたかうには学習内容を深く掘り下げ、疑問を持たせることが出発点となるだろう。

4. 沖縄の現在を取り巻く状況

アメリカ軍専用施設の約70%が沖縄に集中している。日本政府は基地の自由使用を暗黙のうちに認めており、航空機による事故、騒音被害、環境被害、米兵による事件等に苦しんでいる。このような状況はアメリカ本土、アメリカの委任統治領であるグアムですらありえず、日本の他府県においても見られない（日本の他府県での事件・事故・被害については、基地の密度、アメリカ軍兵士の数の違いなど簡単に比較できないところはあるが）。

沖縄県民はアメリカ軍基地の整理縮小を求めている。しかし日本政府は名護市辺野古にアメリカ海兵隊の新基地を建設し、機能を強化しようとしている。また与那国島に自衛隊を配備し、さらに宮古島・石垣島に自衛隊が迎撃ミサイル部隊の配備も計画している。その根拠となるものは「中国脅威論」である。アメリカ軍基地が縮小すれば、中国が沖縄に侵略するという荒唐無稽な言説が「中国脅威論」である。しかし「中国脅威論」は沖縄でも多くの人々が信じている。子どもたちの大半が、基地存続の理由として中国脅威論をあげる。

第3節でも指摘した通り、日本では近現代史の学習がなおざりにされているのが現状である。沖縄の基地の形成過程（ハーグ陸戦条規に違反して基地が建設された）や、基地被害をしっかりと学習されていない。そのため基地があってもいいという生徒も3割ほどいる。これは生まれた時から基地があることが当たり前になっていることや、基地の被害に慣れていることとも関係があるだろう。しかし、最大の原因は基地の歴史、被害、現状について無知であるためだ。荒唐無稽な中国脅威論が通用するのも同じ理由からだと考えられる。

今年6月の地元新聞の記事によると、最近、嘉手納基地が見渡せる「道の駅・かでな」は

中国人観光客に人気だという。飛行機が間近に見られることが人気の理由ということだ。記者が中国人観光客に「中国脅威論」について質問すると、「ありえない」と一笑されたという。観光客をはじめとして中国人と実際に話をする機会が増加することで「中国脅威論」が減少することができるだろう。

5. 日中の架け橋としての琉球・沖縄史の可能性

近現代史の沖縄の歴史からは、通常語られる日本通史とは別の視点からの日本の歴史が見える。今年は明治維新から 150 年であり、現政権は肯定的な面からしか評価しようとしていない。しかし沖縄からは近代日本の裏の面が見えてくる。それは現代史も同様である。沖縄は近現代において日本からの被害者でもあったが、アジアの人びとにとっては加害者だった。この歴史はしっかりと沖縄の子どもたちに教えられねばならない。

沖縄の若い人には、「中国脅威論」と「琉球と中国の文化的親しみやすさ」が同居していると見える。このことは日中友好のカギになるのではないかと考える。

以上のことから、沖縄の歴史がしっかりと教えられるような取り組みが広く行われなければならない。そのために高校における「琉球・沖縄史」の必修化にむけて教材研究・普及活動に取り組んでいる。

日本人の歴史観 及び 日本から見た中国

—琉球・沖縄史を通して—

発表者：大城 航

(沖縄歴史教育研究会・沖縄県高教組那覇支部書記)

シンポ参加者 琉球人墓訪問 北京 復元作業を確認

【北京市で宮城隆尋】第3回琉球・沖縄学術問題国際シンポジウムに参加するため中国を訪れている県内の研究者らが14日、北京市通州区にある琉球人埋葬地を訪問した。北京市が設置したとみられる鉄製の柵で囲われ、説明板が設置されるなど、埋葬地の復元・保存に向けた作業が本格化している状況を確認した。埋

琉球人埋葬地で手を合わせる
沖縄の研究者ら14日、
中国・北京市通州区・



葬地には「琉球処分」(琉球併合)に対して琉球の救国を訴えた陳情使らが埋葬されていたとされる。県などが保存を求め、北京市が昨年1月までに保存する意向を示している。

近隣住民によると、柵と説明板は2016年に設置された。説明板には14人の琉球人が葬られたことや、

中国の琉球人墓地の中で埋葬者の地位が最も高いことなどが記されている。

研究者らは埋葬地で手を合わせ、鎮魂の思いを込めて三線を演奏し、空手を演武した。「琉球処分」(琉球併合)などに抗議して自殺し、埋葬地に葬られたとされる林世功が詠んだ辞世の句(漢詩)を朗読した。

中国の研究者と連携して埋葬地の保存を求めてきた又吉盛清沖縄大学客員教授は「埋葬地は東アジアの平和を発信する場として、琉球の人々が参拝できるようにしてほしい。埋葬された琉球人の無念さを引き継ぎ、歴史に位置づけるためにも保存を訴え続けたい」と述べた。沖縄と中国の研究者間で、記念碑や記念館などの建設も視野に入れて検討されている。

2018年5月15日付け
『琉球新報』



左：石敢當



右：亀甲墓

1700年代中頃、福州から伝わり琉球に広がる

日本風が……です！
漢字をあまり使わないか
ら！

親せきと集まる機会が
多くて良いと思う。

ひとつひとつの文化の意味が
深く、他の県には無いものが
たくさんあるからこのままだと
いいと思う。

近世琉球のまま、日本と中国
のバランスがとれた文化が
良いと思う。

近世琉球のままで良い。
今の文化の方が、沖縄独自の
文化が生まれていると
思うから！！（エイサー、琉球
舞踊、空手など）

中国風がよかった。

・他県とは違う文化が増えることで
行事が増えたり、観光業がもと
盛人になりそうだから。

内地に無い、いい文化
がたくさんあるから
いいと思うー。

今のままで
いいと思う。

現状維持でいいと思う。
中国風でも日本風でもある
から琉球独自の文化らし
くおもしろみがあると思う

5月に行った授業で生徒が考えたこと
問いは「中国風になった近世琉球をどう思うか？」



1879年、琉球王府の反対をおしきり、
軍・警官隊約500人で首里城を制圧



人類館に「展示」された人々



琉球新報主筆・太田朝敷

- ・ 琉球人に対する差別を批判
- ・ アイヌ、台湾先住民と同一視されることを批判
- ・ 展示された人物が遊郭の女性であることを批判

※民族差別・女性差別などの
重複的な差別が読み取れる



南西諸島守備軍（第32軍）の将官たち
1944年7月に琉球列島に配備された



豊見城市の
海軍司令部壕跡

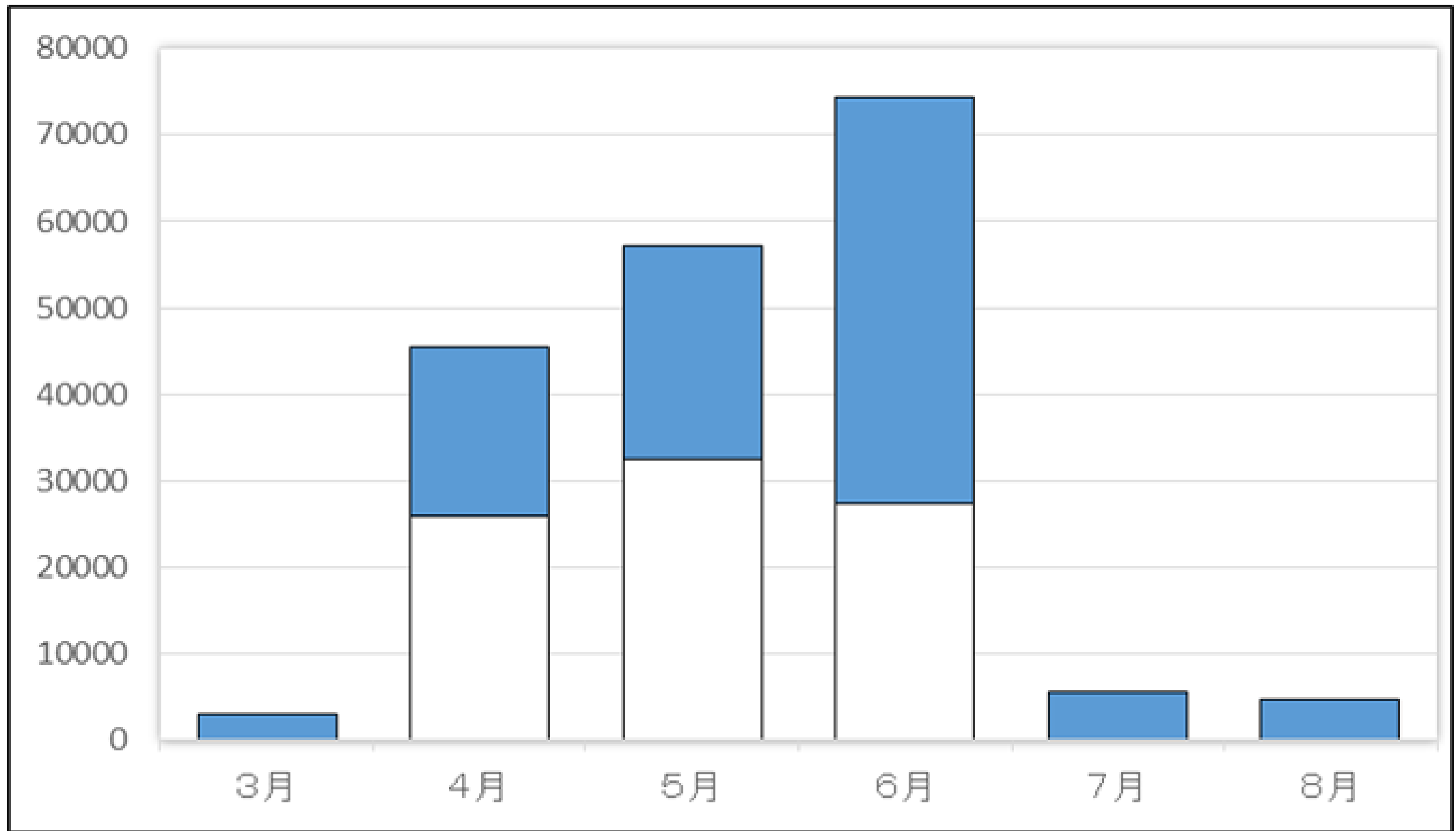
陣地壕や飛行場の建設が、軍民協働で行われた。
民衆が「軍事機密」を知ることでもあり、軍は
「軍官民共生共死」を重要な方針とした



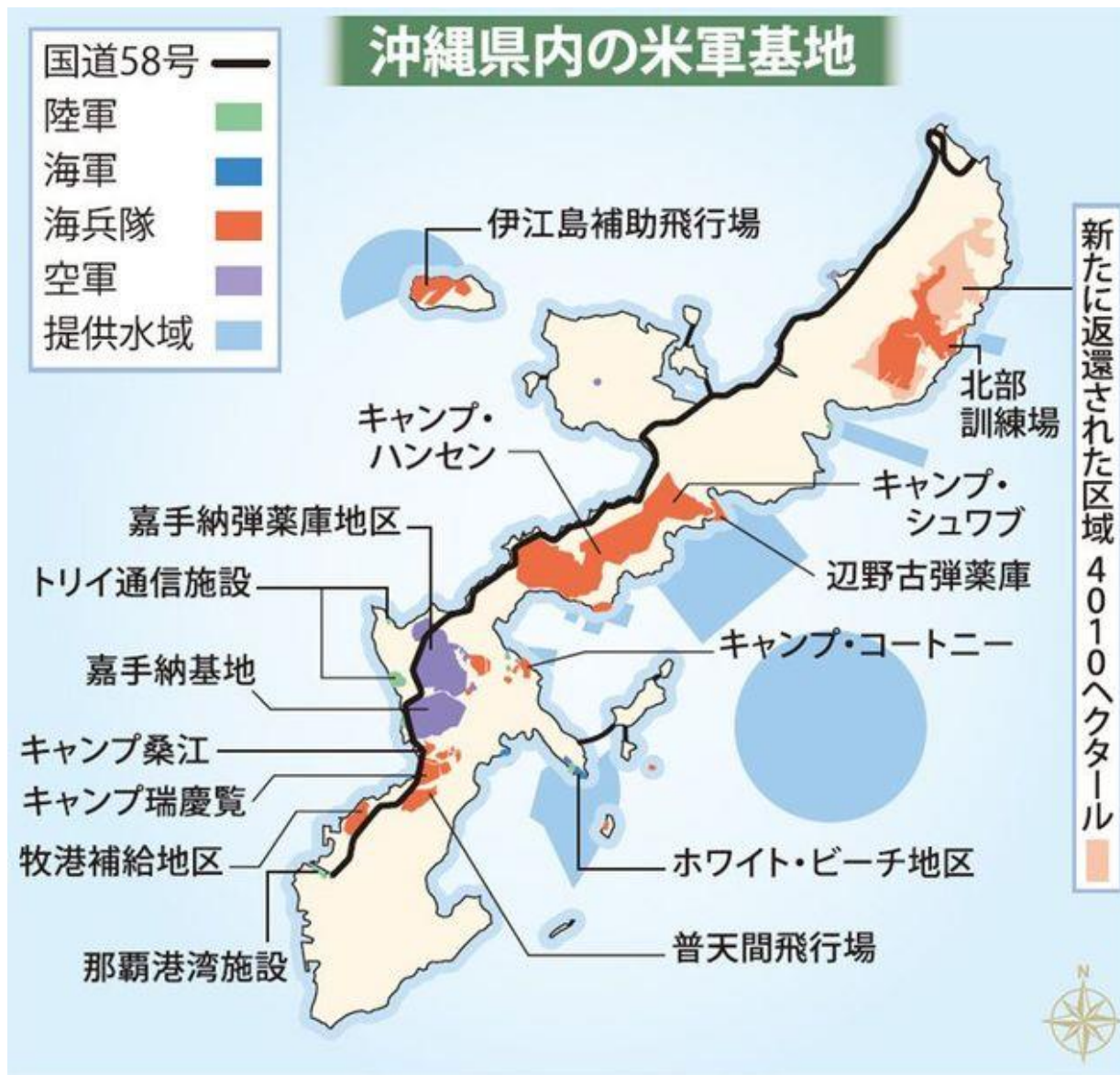
渡嘉敷島における強制集団死（集団自決）の犠牲者



降伏勧告が無視された場合、アメリカ軍は無差別攻撃（馬乗り攻撃）を行った

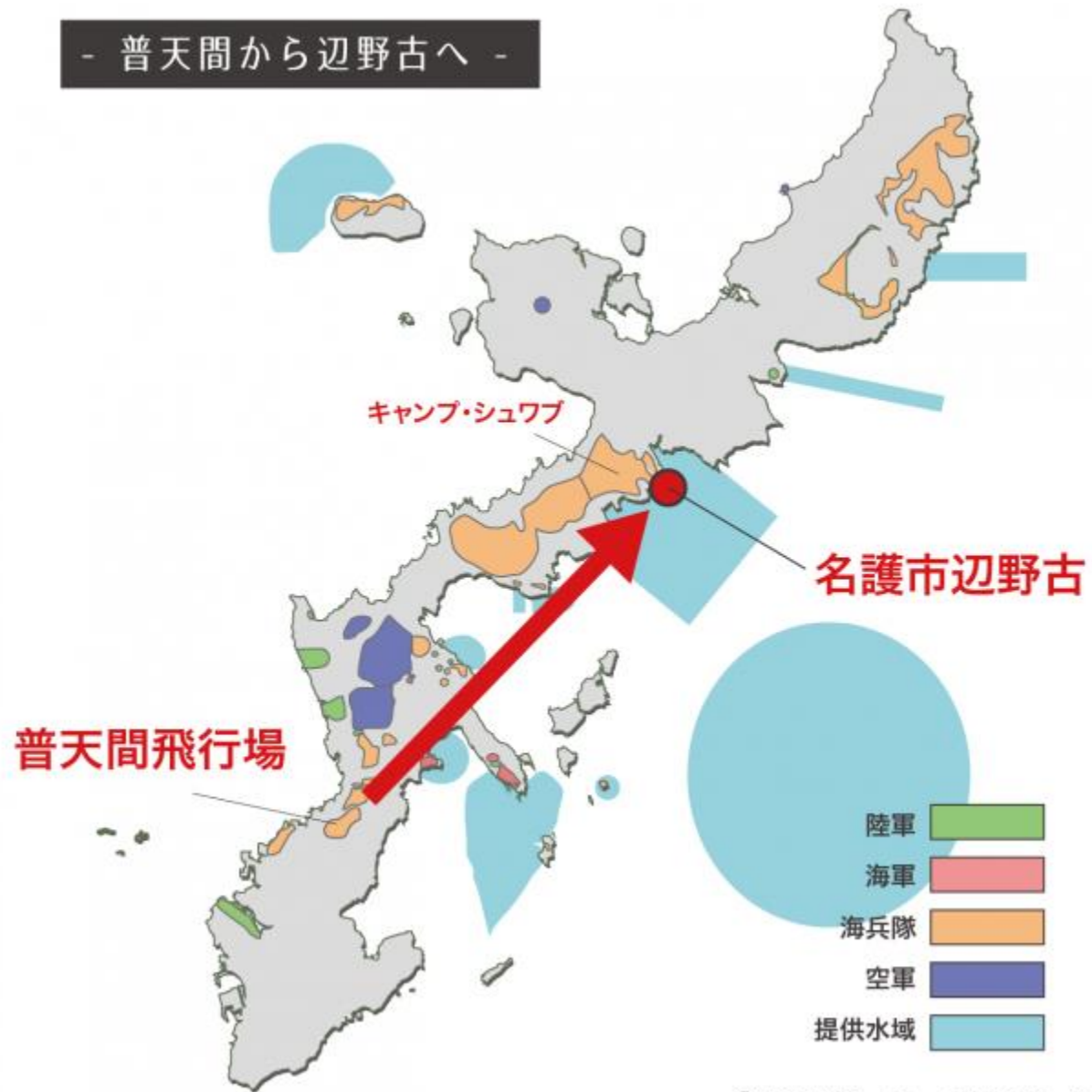


沖縄戦の犠牲者の推移（青：日本兵 白：住民）



米軍専用施設の約70%が沖縄県に集中
民家の側で軍用機が飛行を繰り返す

- 普天間から辺野古へ -

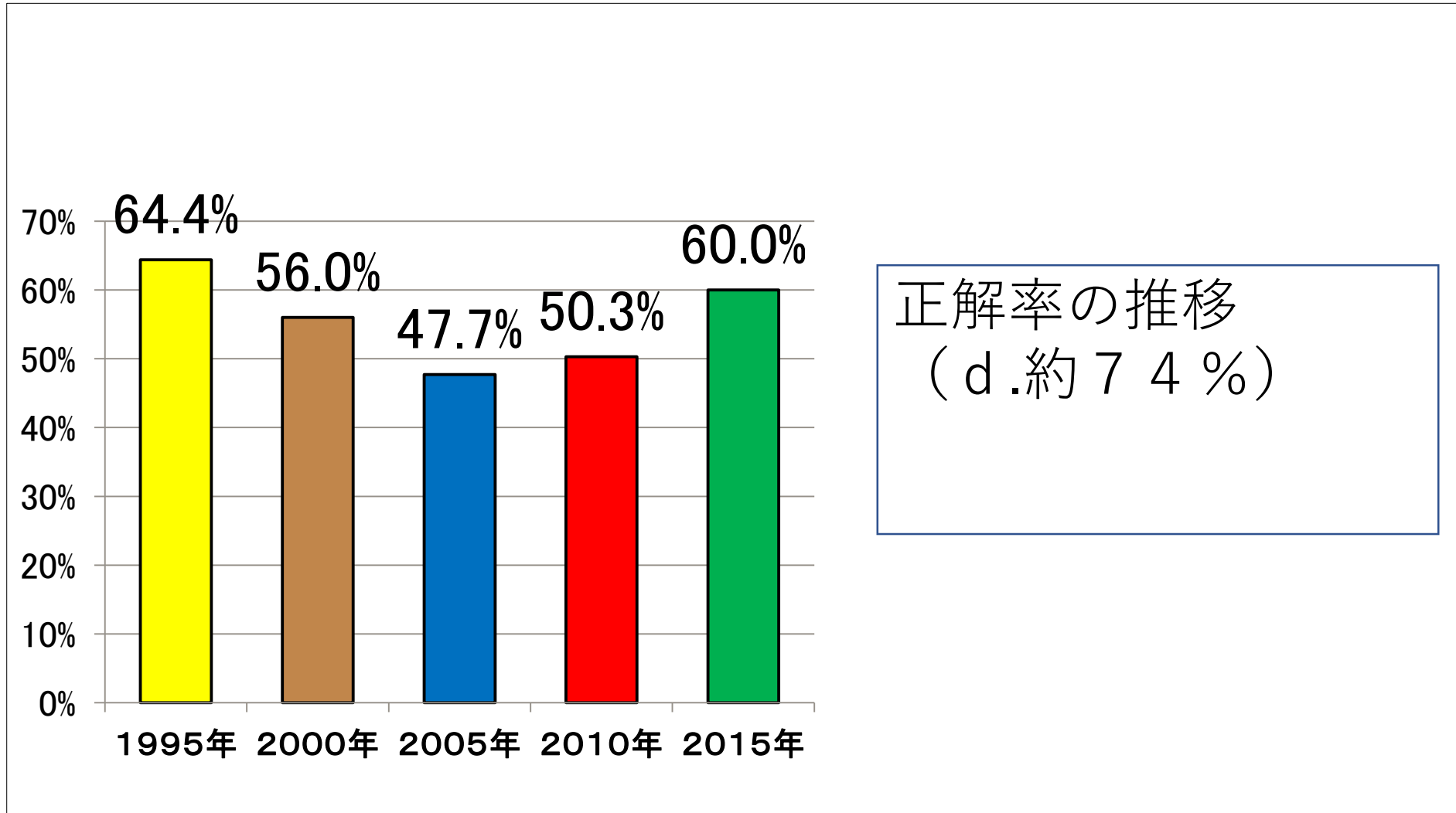


© 2016 SayGee!! & Sekaika!!

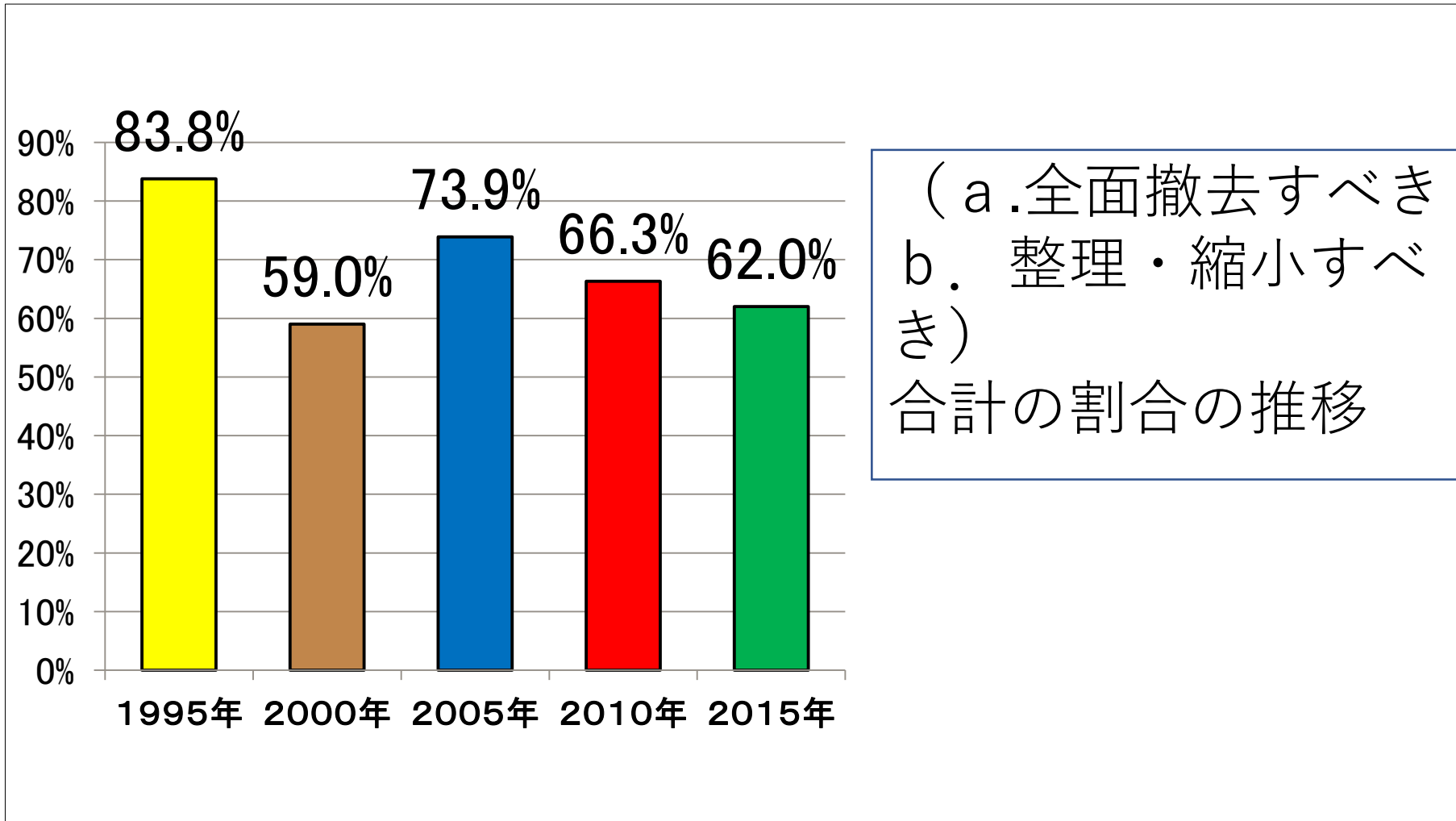


県民の民意を無視し、辺野古に新基地を建設している

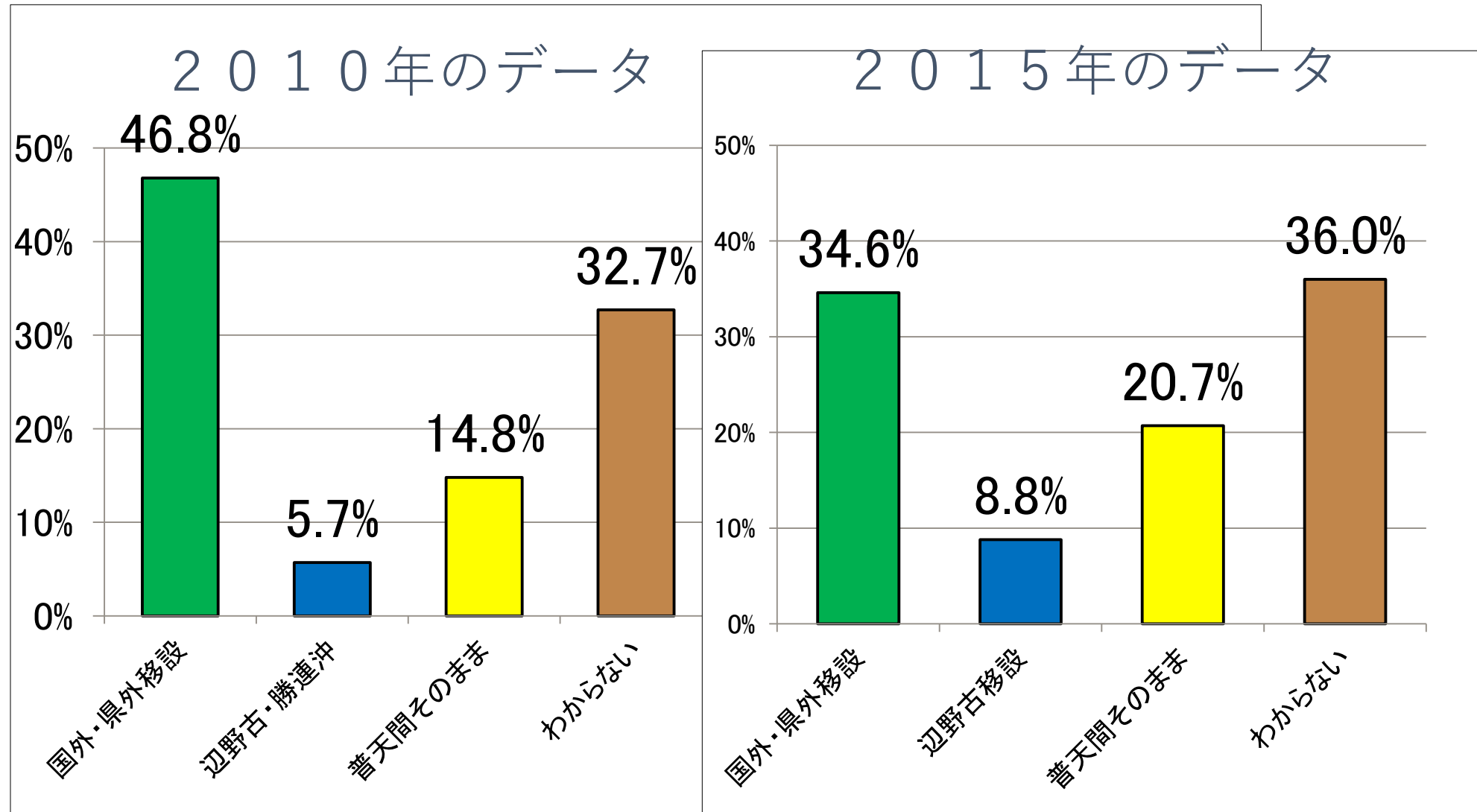
10 全国の米軍専用施設(米軍基地)の約何%が沖縄に置かれていますか。



11 沖縄に米軍基地があることについて、 どう思いますか。



12 普天間基地の移設場所について、どう 思いますか。



沖縄県高教組・沖縄歴史教育研究会 「平和学習に関する高校生アンケート」

- 基礎的な沖縄に関する現状認識ができていない
- 基地を「肯定的」に考える生徒が増えてきている
※「肯定的≠賛成」「肯定的＝当たり前」
- 辺野古移設を「しょうがない」と考える

基地を一望 中国客歓声

道の駅かでな 人気

極東最大規模の米軍嘉手納基地を一望できる嘉手納町屋良の道の駅かでな。中国の大手旅行手納屋良の道の駅かでな」サイトでは、恩納村の「青



「世界一の軍事力」間近に興奮

戦闘機を間近に見る中国観光客。6日、嘉手納町屋良の道の駅かでな

の洞窟」をしのいで本島中部の人気観光地1位にランクイン。道の駅かでなを訪問者数は、中国観光客が押し上げる形で2017年度に過去最多の58万人台を突破した。

（27面に関連）

「ワオ!」。6日の昼下がり。F22ステルス戦闘機が離陸すると、中国西安市から社員旅行で訪れた劉念さん(35)は歓声を上げた。一眼レフカメラで機体を追う。「F22が見たかったんだ」。米本国から嘉手納基地にF22が暫定配備され、本格的な訓練を始めたのはわずか2日前。米国のインターネットニュースで配備を知ったという。

12〜16年度まで50万〜52万人台で推移していた道の駅かでなの訪問者数は、17年度に58万5094人に達した。国別統計はないが、與那嶺秀樹駅長は「外国人

観光客の中で特に中国人が多い印象だ。数年前から中国人観光客の姿はあったが、クルーズ船の就航数と比例するように増えた」と話す。本年度はさらに増える見通しだ。

なぜ人気なのか。県内に在住の中国人ガイドの一人は「美ら海水族館や万座毛と並んで、沖縄に来たら行っておきたい人気観光地の一つ。世界一強い米国の軍事力が近距離で見られるから特に男性に人気だ」と説明する。

中国のニュースで嘉手納基地が取り上げられることも多く、「カデナ」は有名なところ。政治的な場所かもしれないが、遊びに行く強いものを見たら興奮するのでは」と話した。

アジア太平洋地域の情勢をにらむ嘉手納基地が今、中国人の人気観光地と化している。

（中部報道部・篠原知恵、社会部・徐潮）

尖閣で戦争あり得ない 広大な基地 発展を阻害

道の駅かでなの中台観光客

「ゴーツ」と爆音を響かせながら、間を空けずに飛び立つ戦闘機を間近に見る嘉手納町屋良の「道の駅かでな」の展望台。大型バスやタクシーなどでひっきりなしに中国人観光客が訪れ、カメラを構える。どんなまなざしで、対中戦略をもにらむ米軍嘉手納基地に向き合っているのだろうか。（中部報道部・篠原知恵、社会部・徐潮）11面参照

「中国の何が脅威なのだろうか?」。中国蘇州市から旅行で訪れた会社員の康海恵さん(31)、呉妍妹さん(31)夫妻は首をかしげた。夫の康さんは「中国からすると嘉手納基地は脅威だが、沖縄も中国の弾道ミサイルの射程内だ。互いに脅威と見ようとするればそう見えるが、そう見なければ仲間にもなれる」と話す。

日中間で緊張関係にある尖閣諸島問題について考えを聞

恩納村で青の洞窟を観光後、足を運んだ浙江省の陳鵬飛さん(25)は「ここは米国が沖縄を占領し、造った基地だ。中国から見れば米国が台湾を含めた中国包囲網をつくらうとしているように映る」とつぶやいた。

一方、取材に口をつぐむ人もいた。タクシーで万座毛の帰りに家族5人で寄った北京市の30代女性は、尖閣問題などは「デリケートだから言いたくない」と繰り返した。北京市の日系企業に勤める40代男性は「日本と中国は経済的に

識者「安保概念 交流と矛盾」

お互い離れられない。中国の軍事力は日米に対抗できるレベルにはない」と言葉少なだった。

道の駅かでなには、台湾人観光客の姿も少なくない。本島一周の帰りに寄った台湾人会社員の寇允誠さん(46)は「沖縄に米軍基地があるのはありがたい。中国に対峙するため嘉手納基地の軍事力はもっと強くてもいい」と持論を展開。一方で「沖縄の人たちにしては、これほど広い基地が街の中心にあるのは経済発展の阻害になるだろう」と遠くを見つめた。

日本の安全保障では、いわゆる「中国脅威論」を背景に、中国などへの抑止力を在沖米軍基地に求めている。米軍基地に詳しいフリージャーナリストの屋良朝博さんは「日本の安保概念は日米が仮想敵の中国と対峙する構図だ」と話す。だが実際は、米中両軍とも定期訓練を通じ、軍事交流に積極的とし、「仮想敵を探す冷戦思考では、中国人観光客の増加や深化する経済交流を無視する矛盾に陥る。抑止論に拘束される日本の安保観の見直しが必要だ」と提言した。



戦闘機の写真とともに、道の駅かでなを紹介する中国大手旅行サイト。本島中部（沖縄市周辺）の観光地1位「カデナ」になっている

琉球・沖縄の位置

- 日本であって日本でない
- 中国と関係が深いが中国ではない
境界・マージナルな存在
- 近代帝国主義時代
 - ⇒アジアの人びとにとっては加害者
日本本土からの被害者
- 巨大な米軍基地を抱える沖縄
 - ⇒アメリカ帝国主義の支援者
アメリカ帝国主義による犠牲者

琉球・沖縄が求めるもの

○琉球・沖縄人による自己決定

○再び戦場になることを拒否する
基地となることを拒否する

(沖縄人民党書記長・瀬長亀次郎)

○大国に手段・道具として扱われない沖縄

(沖縄県知事・沖縄近現代歴史学者 大田昌秀)



万国津梁の鐘銘文

琉球國者南海勝地而

訳

鍾三韓之秀以大明為

琉球國は南海の勝地にして

輔車以日域為唇齒在

三韓の秀を鍾め
大明を以て輔車となし

此二中間湧出之蓬萊

日域を以て唇齒となす

嶋也以舟楫為万国之

此の二者の中間に在りて
湧出する所の蓬萊島なり

津梁異産至宝充滿十

舟楫を以て万国の津梁となし

方刹

異産至宝は十方刹に充滿せり